

13. くるみ

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	ICボルドー66D	散布	-	-	
M4	オーソサイド水和剤80	散布	収穫7日前まで	4回以内	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アグロスリン水和剤	散布	収穫前日まで	3回以内	
3	アディオフロアブル	散布	収穫7日前まで	2回以内	
1	ガットサイドS	樹幹の地際部から約1.5mの高さまで塗布	収穫7日前まで	2回以内	
3	ロビンフッド	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内	果樹類（かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、すもも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴーを除く）

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
16	アプロードフロアブル	散布	収穫7日前まで	2回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

品種や気象条件により収穫時期が異なるので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。

農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

病虫害名	防除時期	防除方法	注意事項
黒斑細菌病	4月下旬～7月上旬	1. ICボルドー66Dの50倍液を散布する。	1. 雄花先行品種の雄花開花期、または雌花先行品種の雌花開花期から10日間隔で3回、6月以降の梅雨期に20日間隔で2回散布する。
褐斑病	5月～9月	1. ICボルドー66Dの50倍液、オーソサイド水和剤80の800倍液のいずれかを散布する。	1. 被害落葉が第一次伝染源になるので集めて焼却、または土中に埋める。
炭疽病	6月～7月	1. ICボルドー66Dの50倍液、オーソサイド水和剤80の800倍液のいずれかを散布する。	1. 6月以降の梅雨期にICボルドー66Dは20日間隔、オーソサイドは14日間隔で散布する。 2. 被害果は伝染源となるので見つけ次第取り除いて土中に埋める。

病 害 虫 名		防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
シロテシクロマイコガ (クルミミガ)		(第1世代) 6月上旬～ 7月中旬	1. 6月中旬頃から落果を集めて 焼却、または土中深くに埋め る。 2. 第1世代幼虫を対象に、アデ ィオンフロアブル1,500倍液 を6月上旬及び6月中下旬頃 に散布する。	1. アディオンは蚕毒 と魚毒に特に注意 する(特別指導事項 参照)。
		(第2世代) 8月上旬		
コウモリガ		5月～9月	1. 園内、園周辺の雑草を常に刈 り取り清潔にしておく。幼虫 の寄生を認めたら虫孔から針 金を挿して殺す。 2. ガットサイドS原液を地際部 から約1.5mの高さまで塗布 する。	
カミキリムシ類		5月～9月	1. ロビンフッドのノズルを樹 幹・樹枝の食入孔に差し込み 噴射する。処理は、食入孔の 虫糞を取り除き、食入孔の方 向を確認して行う。処理後も 虫糞が認められる場合は、使 用回数に注意して再度処理す る。	1. ロビンフッドの使用 回数及び使用上の 注意は、りんごの 項の総括注意13. (1)を参照。 2. ロビンフッドは、蚕 毒に特に注意する (特別指導事項参 照)。
ケ ム シ 類	クスサン	休 眠 期	1. 越冬卵塊を除去する。	
		5月～6月	1. 若齢の群生幼虫を分散前に捕 殺する。	
	アメリカシロヒトリ	(第1世代) 6月中下旬	1. 初期発見につとめ、群生幼虫 を分散前に捕殺する。 2. アディオンフロアブル1,500 倍液、アグロスリン水和剤 2,000倍液のいずれかを散布 する。	1. アグロスリン、アデ ィオンは蚕毒と魚 毒に特に注意する (特別指導事項参 照)。
		(第2世代) 8月中下旬		
トサカフトメイガ		7月～8月	1. 初期発見につとめ、群生幼虫 を分散前に捕殺する。	
ノシメマダラメイガ (ノシメコクガ)		収 穫 直 後	1. 収穫果は洗浄して完全に乾燥 させる。	
クワシロカイガラムシ		(第1世代) 6月上旬	[参考農薬] 1. アプロードフロアブル1,000 倍液を散布する。	
		(第2世代) 8月上旬		

【総括注意】

1. オーツサイドは魚毒が強いので注意する。